

---

---

# 宮崎県埋蔵文化財センター年報

---

---

第13号

平成21  
(2009)  
年度

2009

宮崎県埋蔵文化財センター年報 平成21(2009)年度

ページ・図番	誤	正
p5 表	海舞寺遺跡 主な遺物 石臼	石臼を消去
p5 表	野地久保畠遺跡 松元茂	松本茂
p21 (2) 表 5段目	有機溶剤作業主任者技能講習 橋本憲二	有機溶剤作業主任者技能講習 橋本憲二・結城修

## 序

本書は宮崎県埋蔵文化財センターの概要と平成20年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

当センターでは国・県・西日本高速道路(株)等の実施する各種開発事業に伴う発掘調査を行うとともに、出土品等発掘文化財の整理、収蔵、公開をすすめ、明らかになった郷土の歴史に関することがらを報告会等によって県民の皆様の郷土に対する理解に役立てるなど、埋蔵文化財の保護と活用に積極的に取り組んでいるところです。発掘調査では、東九州自動車道建設に伴う発掘調査については、5区間において22遺跡を実施し、また、国の事業に伴う3遺跡、県の事業に伴う5遺跡についても調査を実施いたしました。

主な発掘調査については、随時現地説明会や調査報告会を開催して発掘の成果を一般に公開していますが、今後とも県民の皆様に郷土の歴史にじかに触れていただく機会をできるだけ多く持ちたいと考えております。

埋蔵文化財行政の十分な成果が得られるよう今後ともより一層の努力をしまいたいと存じます。

関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

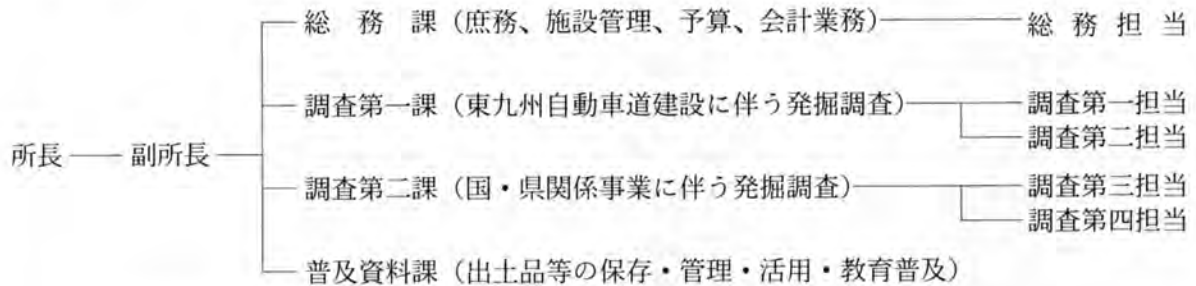
平成21年5月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 福永展幸

# I 組織・施設

組 織

(平成21年5月1日現在)



所 長	福永 展幸	(高速道対策局・併)	主 査	黒木 誠司	(高速道対策局・併)	主 事	日高 優子
副所長	長友 英詞		( " )			( " )	
総務課			主任主事	藤木 聡		主 事	田中 達也
(兼)課長	長友 英詞		( " )			( " )	
総務担当リーダー			主 事	岸田 裕一		主 事	児玉 幹
主 幹	高山 正信		( " )			( " )	
主 査	古市 篤志	(高速道対策局・併)	主 事	石津 晴菜		主 事	小船井 順
( " )			( " )			( " )	
主任主事	矢野 京子		主 事	古田 陽		主 事	橋本 清美
専門主事	青木 英子		( " )			( " )	
調査第一課			主 事	早瀬 航		主 事	米森 祐太
課 長	長津 宗重		( " )			( " )	
調査第一担当リーダー			主 事	深江 龍哉		主 事	橋口 由佳
副主幹	飯田 博之		調査第二担当リーダー			臨時調査員	岡田 諭
主任主事	松本 茂	(高速道対策局・併)	主 幹	菅付 和樹		調査第二課	
( " )			主 査	松田 博幸		課 長	石川 悦雄
主 査	出山 真次		主任主事	徳留 洋志		調査第三担当リーダー	
( " )			(高速道対策局・併)			副主幹	福田 泰典
主 査	崎田 一郎		主 査	安藤 利光		主 査	若松 宏一
( " )			( " )			主 査	中田 憲治
主 査	吉野 達三		主 査	中武 朋文		主 査	和田 理啓
( " )			( " )			主 事	加藤 徹子
主 査	日高 博司		主 査	横山 正文		主 事	有馬 絢子
( " )			( " )			調査第四担当リーダー	
主 査	黒木 秀一		主 査	土屋 雄毅		主 幹	近藤 協
( " )			( " )			主 査	橋本 憲二
主 査	結城 修		主 査	田中 敏雄		主 査	黒木 俊彦
( " )			( " )			主 査	川越 宏之
主 査	山田 高大		主任主事	今塩屋毅行		主任主事	二宮 満夫
( " )			( " )			主 事	森田 利枝
主 査	竹田 享志		主 事	原口耕一郎		(囑託)	
( " )			( " )			調査員	福田 光宏
主 査	松林 豊樹		主 事	淵ノ上隆介		普及資料課	
( " )			( " )			(兼)課長	石川 悦雄
主 査	高橋 浩子		主 事	石貫 弘泰		主 事	柳田 晴子
						(囑託)	
						専門員	津隈久美子

## 施 設

(本館) 宮崎市佐土原町下那珂 4 0 1 9

① 本館 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 2,656.50㎡

事務室	57.76㎡
所長室	19.86㎡
情報処理室	33.17㎡
会議室	78.52㎡
休憩室	78.52㎡
調査研究室	248.55㎡
復元整理室	293.44㎡
一次処理室	96.81㎡
図面整理室	61.62㎡
写場	64.20㎡
暗室	12.65㎡
一次保管室 (2層)	188.00㎡
図書室 (2層)	193.88㎡
荷捌室	43.01㎡
その他	276.00㎡
小 計	1,745.99㎡

② 附属建物 (鉄骨造)

整理作業棟	216.76㎡
-------	---------

③ 附属建物 (鉄骨造)

收藏庫棟	693.75㎡
------	---------

(分館) 宮崎市神宮 2 丁目 4 - 4

分館 (鉄筋コンクリート造 2 階建) 1,652.38 ㎡

1 階 877.58 ㎡

一次処理室	121.20㎡
復元整理室	148.30㎡
保存処理室	49.30㎡
(鉄器	22.70㎡)
(木器	26.60㎡)
研修室	143.20㎡
事務室	41.80㎡
展示室	150.00㎡
器材庫	11.00㎡
エントランスホール他	212.78㎡

2 階 774.80㎡

写場・暗室	49.30㎡
写真保管室	35.10㎡
図面保管室	53.10㎡
收藏整理室	19.30㎡
收藏室	564.00㎡
特別收藏室	54.00㎡

## Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事 項
1980 1981 1982	昭55 56 57. 1. 9 7.29 10. 2	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案 基本設計を実施 起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名 発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」（講師：国立民俗学 博物館教授佐々木高明）。
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山転出、菅付和樹転入）
1985	60.11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、運ヶ池横穴墓群―遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行 センター長長友敏発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳―遺物編」刊行。 兼務職員が13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡―資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。 設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82-'91」を開催する。脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9.15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1.29 2.16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3.17	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名になる。
2000	12. 1.20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分室とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤12名となる。 分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名採用）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧鹼検定工場を農政企画課から所管換え。
2005	17. 3. 8 4. 1 8.18 11.16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員7名採用）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東駐原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員64名（うち任期付き職員18名）、非常勤職員8名となる。
2007	19. 6. 1	職員64名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員3名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員61名（うち任期付き職員16名）、非常勤職員1名となる。
2009	21. 4. 1	職員59名（うち任期付き職員18名）、非常勤職員1名となる。

### Ⅲ 平成20年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成20年度は以下に記述する事業を実施した。

#### 1 埋蔵文化財緊急調査

##### (1) 発掘調査

東九州自動車道や国道をはじめ、国、県施設の建設に伴う試掘・確認調査や発掘調査を実施している。本年度は海舞寺遺跡（延岡市）、宮鶴第2遺跡（北郷町）、梅北針谷遺跡（都城市）、次郎左衛門遺跡（西都市）などの遺跡の本調査と東九州自動車道建設関連の確認調査を実施した。

##### 平成20年度試掘・確認調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	宮鶴第2遺跡（四次）	北郷町	縄文早期 近世	集石遺構 ビット	石器 陶磁器	H20. 5. 7 } H20. 5. 8	262㎡	崎田一郎 松本 茂	東九州自動車道(清武～日南間) 建設
2	日平山ノ口第2遺跡	日向市 東郷町	なし	なし	なし	H20.11. 5 } H20.11.10	25㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自動車道(日向～都農間) 建設
3	日平山ノ口第3遺跡	日向市 東郷町	なし	なし	なし	H21. 3. 4 } H21. 3.19	10㎡	小船井順 田中達也 安藤利光 土屋雄毅 堀田孝博	東九州自動車道(日向～都農間) 建設
4	向原中尾第5遺跡	日向市 東郷町	弥生～古墳	なし	土器片	H20.11.17 } H20.12. 1	15㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自動車道(日向～都農間) 建設
5	内野々第2遺跡	都農町 大字川北	なし	なし	なし	H21. 1.13 } H21. 1.14	10㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自動車道(日向～都農間) 建設
6	内野々第4遺跡	都農町 大字川北	旧石器 縄文時代 弥生～古墳	なし	剥片 土器片、石鏃 土器片	H21. 1.15 } H21. 1.23	20㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自動車道(日向～都農間) 建設

平成20年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	海舞寺遺跡	延岡市北浦町	旧石器 縄文 中世～近世	掘立柱建物 石組遺構、 横穴	削器 縄文土器、剥片 陶磁器、石塔、 石臼、古銭、火 打ち石	H20. 6.16 } H20.10.20	1,800㎡	黒木秀一 岡田 諭 藤木 聡	東九州自 動車道(県 境～北川 間) 建設
2	市之串遺跡	延岡市北浦町	古墳	横穴	なし	H20.10.14 } H20.12.26	4,400㎡	崎田一郎 松元一浩 藤木 聡 田村浩司	東九州自 動車道(県 境～北川 間) 建設
3	中野内遺跡(三次)	延岡市北浦町	縄文早期 弥生中期後 半 古墳中期 中世	集石遺構 竪穴住居  竪穴住居、 ビット群	弥生土器、台石 石鏃、石錘 土師器、須恵器 (高坏・甕・壺) 土師器(皿)	H20. 6. 9 } H20. 9.22	2,400㎡	古田 陽 早瀬 航 山田高大 藤木 聡	東九州自 動車道(県 境～北川 間) 建設
4	森ノ上遺跡	延岡市北浦町	縄文早期  弥生後期～ 古墳前期 中世～近世	集石遺構、 炉穴  竪穴住居	土器(貝殻条痕 文、押型文)、石 鏃、尖頭器等 土器(土師器等)、 石器、鉄器(刀子) 陶磁器	H20. 8.25 } H21. 2. 2	5,450㎡	山田高大 藤木 聡 岡田 諭 早瀬 航	東九州自 動車道 県 境～北川 間) 建設
5	カラ石の元遺跡	延岡市熊野江町	縄文前期 古墳中期 中世  近世	竪穴住居 掘立柱建物、 土坑・溝状 遺構	土器、石器 土器、石器 六地藏幢・石塔、 土師器  陶器製人形、銭貨	H20. 6. 2 } H20. 9.16	1,600㎡	田村浩司 松元一浩 藤木 聡	東九州自 動車道(県 境～北川 間) 建設
6	野地久保島遺跡(一～三次)	延岡市北浦町	縄文晩期 弥生 中世～近世	掘立柱建物	土器 土器 陶磁器、火打ち 石、銭貨	H20. 6. 2 } H20. 9.16 H20.10.14 } H20.12.25 H21. 1.13 } H21. 1.22	3,500㎡	竹田享志 松元 茂 黒木誠司 重留康宏 松元一浩 崎田一郎 藤木 聡	東九州自 動車道(県 境～北川 間) 建設
7	野首第2遺跡(三次)	高鍋町	旧石器 縄文早期、 後～晩期 古墳 近世	礫群	石核、剥片 土器(押型文) 石錘、石斧 土師器、須恵器 陶磁器	H20. 4. 1 } H20. 4.30	402㎡	石津晴菜 黒木秀一 松元一浩	東九州自 動車道(都 農～西都 間) 建設



	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
8	山ノ口遺跡	川南町	なし	なし	なし	H20. 5.26 と H20. 6. 6	4,450㎡	吉野達三 重留康宏 黒木誠司 松本 茂 深江龍哉	東九州自動車道(都農～西都間)建設
9	谷ノ口遺跡	川南町	なし	なし	なし	H20. 5.12 と H20. 5.13	50㎡	吉野達三 重留康宏 黒木誠司 松本 茂 深江龍哉	東九州自動車道(都農～西都間)建設
10	銀座第1遺跡 (五次)	川南町	旧石器  縄文早期以前 弥生中期以降 中世以降	陥し穴、土坑  竪穴住居  竪穴状遺構、掘立柱建物 ピット群	剥片、ナイフ形石器 剥片、石鏃、磨石 土器(装飾高坏等) 土師器、青磁	H20. 7.28 と H20. 2.27	3,600㎡	吉野達三 松本 茂 重留康宏 深江龍哉	東九州自動車道(都農～西都間)建設
11	宮鶴第2遺跡	北郷町	縄文早期  弥生 古墳 中世～近世	集石遺構、土坑  ピット	土器(貝殻文)、剥片 土器 土師器 陶磁器、銭貨	H20. 8. 4 と H20.10.14	1,680㎡	崎田一郎 黒木誠司 松本 茂	東九州自動車道(清武～日南間)建設
12	塩見城跡	日向市 大字塩見	中世～近世	曲輪、堀切、掘立柱建物、石積遺構、井戸、柵列、排水溝	陶磁器(青磁・白磁・青花・古瀬戸・備前焼・肥前染付)、石製品(五輪塔・石臼)、木製品(桶・井戸枠・漆器・曲げ物・杭柱材等)	H20. 4. 7 と H20.10.31	5,140㎡	洲ノ上隆介 田中達也 堀口悟史 今塩屋毅行 児玉 幹 小船井順	東九州自動車道(門川～日向間)建設
13	板平遺跡 (3次)	日向市 大字富高	旧石器 縄文早期  古墳 中世	散礫、集石遺構、炉穴、陥し穴状遺構 竪穴住居 掘立柱建物	石核、剥片 土器片、打製石鏃、石斧、石錘  土器片、台石 青磁	H20. 4.21 と H20. 6.13	460㎡	島木良浩 日高優子	東九州自動車道(門川～日向間)建設
14	向原中尾第1遺跡	日向市 東郷町	縄文時代 弥生～古墳 近世	溝状遺構	土器片、石器 土器片、磨石 陶磁器	H20.12.19 と H21. 1. 6	200㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自動車道(日向～都農間)建設

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
15	向原中尾 第3遺跡	日向市 東郷町	弥生～古墳	なし	土器片、磨石、 石錘、剥片	H20.12. 2 ) H20.12.15	280㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
16	向原中尾 第4遺跡	日向市 東郷町	縄文早期 弥生～古墳	なし	剥片 土器片、磨石	H20.11.17 ) H20.12. 1	190㎡	小船井順 島木良浩 嶋田史子 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
17	舟川中原 遺跡第2 地点	都農町 大字川北	旧石器 縄文時代  近世	土坑	石核、剥片 土器、石斧、磨 石 陶磁器	H21. 1.15 ) H21. 1.27	70㎡	田中達也 安藤利光 土屋雄毅 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
18	下原遺跡	都農町 大字川北	旧石器 縄文時代	土坑、ピット、溝状遺構	剥片 土器片、石鏃、 台石、剥片	H20.11.26 ) H20.12.12	400㎡	田中達也 安藤利光 土屋雄毅 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
19	西ノ郡第 2遺跡	都農町 大字川北	なし	なし	なし	H20.11.17 ) H20.11.21 H21. 1.28 ) H21. 2. 2	150㎡	田中達也 安藤利光 土屋雄毅 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
20	木戸平第 2遺跡	都農町 大字川北	弥生～古墳	なし	土器片	H21. 1. 6 ) H21. 1.14	40㎡	田中達也 安藤利光 土屋雄毅 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
21	木戸平第 1遺跡	都農町 大字川北	なし	なし	なし	H20.12.15 ) H20.12.25	500㎡	田中達也 安藤利光 土屋雄毅 堀田孝博	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
22	俵石第1 遺跡	都農町 大字川北	旧石器  縄文早期  弥生～古墳	焼土ピット  ピット、土坑、陥し穴状遺構 竪穴住居	細石刃核、ナイフ形石器、角錐状石器、二次加工剥片 打製石鏃  土器片	H20.11. 4 ) H21. 3.31	2,445㎡	横山正文 今塩屋毅行 日高優子	東九州自 動車道(日 向～都農 間)建設
23	高鍋城三ノ丸跡	高鍋町 上江	中世  近世	溝状遺構、自然流路  溝状遺構	土師器、陶磁器、中世須恵器等  陶磁器、木製品	H20. 5.12 ) H20. 7.18	990㎡	和田理啓 森田利枝	高鍋農業 高校実習 施設緊急 整備事業

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
24	梅北針谷遺跡	都城市 梅北町	縄文 弥生 古代	掘立柱建物 土坑 鍛冶関連遺構	縄文土器 弥生土器 土師器、須恵器、 陶磁器、鉄製品	H20. 6. 4 } H20. 9.16	2,400㎡	若松宏一 中田憲治 松田博幸 福田光宏	都城東環 状線(今町 工区)工事
25	働女木遺跡	都城市 五十町	縄文 弥生	集石遺構 竪穴住居、 土坑墓、土坑	縄文土器 弥生土器、石製 品	H20. 8. 4 } H21. 3.31 次年度継続	8,000㎡	中田憲治 和田理啓 松田博幸	都城東環 状線(今町 工区)建設
26	次郎左衛門遺跡	西都市 大字三宅 字次郎左 衛門	中世 近世	溝状遺構、 土坑、柱穴 溝状遺構 土坑	土師器、陶器、 貿易陶磁 染付、陶器	H20. 9. 8 } H21. 2. 6	2,400㎡	森田利枝 松田博幸	一般国道 219号(園 元バイパ ス) 建設
27	堀川運河 (第11次 調査)	日南市 油津	大正～昭和	運河護岸石 積み	—	H20.11.25 } H21. 2. 5	220㎡	福田泰典 若松宏一	堀川運河 漁港環境 整備事業
28	前ノ田村 遺跡	川南町 大字川南	旧石器 縄文早期 弥生後期	集石遺構 炉穴 竪穴住居	尖頭器 貝殻条痕文土器、 石鏃 弥生土器、石庖 丁	H20. 7.29 } H20.10.16	612㎡	黒木俊彦 松田博幸	国営尾鈴 農業水利 事業西光 原調圧水 槽建設
29	初木地下 式横穴墓 群	国富町 大字八 代北俣	古墳時代 中～後期	地下式横穴 墓	人骨、直刀、鉄 鏃、刀子、鉄斧、 鋤先、管玉、丸 玉、ゴホウラ製 貝輪、土師器	H20.12. 1 } H20.12.26	50㎡	二宮満夫 黒木俊彦	国営綾川 二期農業 水利事業 既設管処 理工事
30	平峰遺跡 (二次)	都城市 平塚町	古墳時代 中～後期 古代	竪穴住居 柱穴 道路状遺構	土師器、鍛冶関 連の鉄滓、須恵 器、砥石	H20.12.15 } H21. 3.18	1,150㎡	橋本憲二 黒木俊彦 二宮満夫 福田光宏	一般国道 10号都城 道路建設

## (2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な調査を要する遺跡の調査にあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の専門の研究者を招聘した。また、時代のはっきりしない遺物や考古学以外の分析を必要とする遺物について職員を派遣し指導を受けた。

### 調査指導

所属・氏名	指導内容	場所	日程
佐賀県教育庁社会教育・ 文化財課 主査 宮武 正登	東九州自動車道(門川～日向間)建設に伴う塩見城跡の構造及び検出遺構の評価と調査方法に係る調査指導	日向市 塩見城跡	H20. 5.29～30

所属・氏名	指導内容	場所	日程
東洋陶磁学会 関西近世考古学研究会 森村 健一	東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う塩見城跡・中山遺跡出土貿易陶磁器の産地同定とその評価に係る調査指導	埋蔵文化財センター本館	H20.11.20～21
愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター 教授 村上 恭通	一般国道10号都城道路建設に伴う平峰遺跡2次発掘調査に係る鍛冶遺構および鍛冶遺構から出土する鉄関連遺物についての調査指導	埋蔵文化財センター本館	H21. 2.12～14

### 資料調査

目的	出張先	日程	出張者
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡整理作業に係る中世キリシタン関連遺物資料調査	大分県教育庁埋蔵文化財センター 大分県立歴史博物館 大分市 高崎城跡	H20. 5. 8～9	田中敏雄 堀田孝博
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡整理作業に係る中世キリシタン関連遺物資料調査	長崎市 日本二十六聖人記念館	H20. 5.30～31	田中敏雄 堀田孝博
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡報告書作成に係る中世山城跡調査及び文献資料調査	山梨県苗吹市 帝京大学山梨文化財研究所 国立国会図書館	H20.10.18～20	田中敏雄
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う中山遺跡整理作業に係る瓦質土器・陶器等資料調査	九州国立博物館 山口県埋蔵文化財センター 山口市教育委員会文化財保護課	H20.11.12～14	堀田孝博
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う塩見城跡整理作業に係る陶磁器類資料調査	宮崎県日向市美々津歴史資料館	H21. 2. 5	田中敏雄 堀田孝博 瀧ノ上隆介 児玉 幹
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う塩見城跡整理作業に係る陶磁器・土師器皿資料調査	宮崎県都城市教育委員会文化財課	H21. 2.26	田中敏雄 堀田孝博 瀧ノ上隆介 児玉 幹
東九州自動車道（門川～日向間）建設に伴う塩見城跡整理作業に係る土師器皿ほか資料調査	鹿児島県霧島市隼人埋蔵文化財調査事務所	H21. 3. 5	田中敏雄 堀田孝博 瀧ノ上隆介 児玉 幹

### (3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度に整理を実施した遺跡は19遺跡で、内訳は東九州自動車道関係及び一般国道10号等西日本高速道路株式会社、国からの受託事業が17遺跡、県土木事務

所関係1遺跡、県学校政策課関係1遺跡である。

また、整理作業の終了した8遺跡については発掘調査報告書を刊行した。

#### 出土遺物等整理対象遺跡一覧

事業名	東九州自動車道（都農～西都間）建設
事業者	西日本高速道路株式会社九州支社宮崎工事事務所
遺跡名	尾花A遺跡、野首第2遺跡（二次・三次）

事業名	東九州自動車道（門川～日向間）
事業者	西日本高速道路株式会社九州支社延岡高速道路事務所
遺跡名	中山遺跡、塩見城跡、板平遺跡（3次）

事業名	東九州自動車道（県境～北川間）建設
事業者	国土交通省延岡河川国道事務所
遺跡名	中野内遺跡、海舞寺遺跡、市之串遺跡、森ノ上遺跡、カラ石の元遺跡

遺跡名	事業名	事業者
高鍋城三ノ丸跡	高鍋農業高校実習施設緊急整備事業	学校政策課
楠牟礼1号地下式横穴墓	平成18年度交通安全整備事業一種（国道）国道221号下堤工区歩道設置工事	小林土木事務所
平峰遺跡	一般国道10号都城道路建設	国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所
黒仁田遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局延岡河川国道事務所
住吉B遺跡 赤石遺跡	国営尾鈴農業水利事業大内ファームポンド敷地造成工事及び調整水槽工事	農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所
前ノ田村遺跡	国営尾鈴農業水利事業西光原調圧水槽工事	農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所
旭2丁目遺跡	宮崎地方裁判所増築	九州地方整備局鹿児島宮籍事務所

#### 発掘調査報告書刊行一覧

集	報告書名	副書名	執筆・編集者
1 179	南中原第1遺跡（二次）	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書61	土屋雄毅
2 180	楠牟礼1号地下式横穴墓	平成18年度交通安全整備事業一種（国道）国道221号下堤工区歩道設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	丹 俊詞・和田理啓

集	報告書名	副書名	執筆・編集者
3	181 黒仁田遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	平山十四郎
4	182 赤木遺跡第8地点 (第一次調査)	一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(6)	近藤 協・橋本英俊・丹 俊詞
5	183 旭2丁目遺跡	宮崎地方裁判所増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	二宮満夫
6	184 住吉B遺跡・赤石遺跡	国営尾鈴農業水利事業大内ファームポンド敷地造成工事及び調整水槽工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	二宮満夫・谷口千尋
7	185 尾花A遺跡I 旧石器時代～縄文時代編	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書62	出山真次・高橋浩子・松林豊樹・岸田裕一 日高博司・結城 修・竹田享志・福田 聡
8	186 高鍋城三ノ丸跡	高鍋農業高校実習施設緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	和田理啓・森田利枝

#### (4) 保存処理

保存処理室では、金属製品や木製品を保存処理している。宮崎県は、地下式横穴墓などから多量の金属製品が良好な状態で出土するため、年次的に金属製品の保存処理関係機器を整備してきた。木製品については、装置等が未設置であるため、委託あるいはバキュームシーラーでのパッキング等で対応している。また、市町村教育委員会からの備品の利用や保存処理の依頼についても受け入れられている。本年度は、2遺跡の資料について樹脂含浸強化処理を行った。

#### 保存処理・調査研究関係備品一覧

設置場所	機器名	製品名(規格)	製造会社名	購入年	備考
鉄器保存処理室 (分館)	送風定温乾燥機	DN-61型	ヤマト科学	1983	漏電ブレーカー
	定温乾燥機	DN-94型	ヤマト科学	1992	
	鉄器樹脂含浸装置	300×1200		1983	
	精密噴射加工機	POWER BLAST 50N	岡本歯研	1992	
	小型グラインダー	ミニタースタンダード	関東機器	1993	
	軟X線装置	ソフテックス SPC-1501	ソフテックス	1991	TVシステム
	小型空気圧縮機	EF-OUKT	日立製作所	1983	
	ドラフトチャンバー	CSF-K15	島津理化	1992	
木器保存処理室 (分館)	脱塩洗浄処理装置		滝口製作所	1992	
一次処理室 (分館)	超音波洗浄器	5200J4	シャープ	1991	
	卓上バキュームシーラー	SQ-202	サランラップ	1991	SQドレン付

設置場所	機器名	製品名(規格)	製造会社名	購入年	備考
復元処理室 (本館)	実体顕微鏡	SMZ-2T	ニコン	1991	写真撮影装置付
写場 (本館)	赤外線カメラ	IRRS-100	浜松ホトニクス	1992	

#### 平成20年度鉄器保存処理実施遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
中山遺跡	銭貨・金属製品など(10点)	脱塩・含浸処理を実施。保存処理終了。
塩見城跡	銭貨・金属製品など(40点)	土、錆を落とし、エタノール洗浄。脱塩処理を実施。

#### (5) 収蔵整理

##### ① 収蔵庫(分館)

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成20年度末における収蔵量はコンテナ8,961箱である。

##### ② 収蔵庫(本館)

平成18年度に完成した新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成20年度は、コンテナ1,144箱を搬入した。これまでに搬入した分と合わせると、コンテナ9,871箱の収蔵量となった。

##### ③ 登録作業

分館において実施している従来の登録法による平成20年度の実績は3遺跡、コンテナ148箱である。よって、累計169遺跡、コンテナ4,610箱となった。また、累積し続ける未登録資料の解消を図るために平成18年度から運用を始めた新登録法による20年度の登録実績は6遺跡、コンテナ176箱であり、累計23遺跡、コンテナ410箱となった。よって、平成20年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、192遺跡、コンテナ5,020箱である。

##### ④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成20年度は1,787冊の受け入れがあり、合計収蔵数は59,030冊になる。バーコードを利用した図書管理システムを導入しており、パソコンを用いた図書類のデータベース登録を実施している。

## 2 教育普及活動

埋蔵文化財に親しめる事業として「ここまでわかったひむかの歴史～講演会と遺物公開～」と題して年6回、講演と遺物公開を行った。また、「ひむかの歴史2008～遺跡発掘速報会～」と題して8月に、平成19年度の発掘調査の速報会を県立図書館で開催した。さらに、11月の文化財保護強調週間に合わせて、毎年恒例の「埋文センター施設公開」を本館・分館で同時開催した。

その他に、学校及び生涯学習団体等を支援することを目的として、出前講座や埋文センターミニ巡回展、発掘体験を行った。なお、分館では、常時発掘調査の成果を公開しており、遺物整理や報告書作成までの作業を行う復元整理室を見学することができる。平成20年度の来館者は2,413名であった。

#### (1) ここまでわかったひむかの歴史～講演会と遺物公開～

年間6回(5、7、10、12、1、3月)の第4土曜日の午後1時30分から3時まで分館研修室で講演会を実施している。その講演会に先立ち、前後の約2か月間、関連する遺物公開を実施した。なお、講師は当センターの職員が務めた。

## 講演日及び講演名等

開催日	講演名	講師	参加者
第1回 H20. 5.24	「黒く輝く石の話」 尾立第2遺跡（都農町）	宮崎県埋蔵文化財センター 岸田 裕一	28名
第2回 H20. 7.26	「住居跡からみる弥生人の生活」 諸麦遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 黒木 俊彦	16名
第3回 H20.10.25	「食う寝る処に住む処」 宮ノ東遺跡（西都市）	宮崎県埋蔵文化財センター 藤木 聡	28名
第4回 H20.12.20	「祈りの心」 筆無遺跡（都城市）	宮崎県埋蔵文化財センター 福田 泰典	10名
第5回 H21. 1.24	「そこに寺はあったか？」 曾井第2遺跡（宮崎市）	宮崎県埋蔵文化財センター 和田 理啓	28名
第6回 H21. 3.21	「高鍋に続くヒスイの道」 野首第2遺跡（高鍋町）	宮崎県埋蔵文化財センター 松本 茂	22名

## (2) ひむかの歴史2008 ～平成19年度遺跡発掘速報会～

平成19年度に発掘調査を実施した遺跡から、地域、時代、事業などを考慮して6遺跡を選び、県立図書館において遺跡発掘速報会を行った。

開催日	時間	場所	参加者
H20.8.23	13：30～16：00	県立図書館	62名

	遺跡名	報告内容	担当者
1	旭2丁目遺跡（宮崎市）	大淀川の河畔に住まう	二宮 満夫
2	野首第2遺跡（二次）（高鍋町）	集められた原石	石津 晴菜
3	赤石遺跡（川南町）	多様多彩！赤石ア・ラ・カルト	谷口 千尋
4	中山遺跡（日向市）	改修された山城	田中 敏雄
5	楠牟礼1号地下式横穴墓（小林市）	古墳時代の死後の世界	和田 理啓
6	平峰遺跡（都城市）	平峰タウン、住まいのショールーム	橋本 憲二



「ひむかの歴史2008」速報会の様子



「ひむかの歴史2008」展示の様子



### (3) 埋文センター施設公開

毎年11月第1週の文化財保護強調週間に施設公開を実施している。本年度は、11月1日に本館と分館の2会場で施設を同時に公開した。

開催日	内容	参加者
H20.11. 1	○体験コーナー ・本物の土器を持つての記念写真 ・土器の洗浄 ・土器の拓本 ・実測 ・トレース ・土器の接合 ○見学・観察コーナー ・出土遺物公開 ・実体顕微鏡（土器圧痕や炭化種実の観察） ・収蔵庫見学	本館 99名 分館 66名

### (4) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が、要請のあった各地域に出向いて、生涯学習団体や小・中学校等を対象とした埋蔵文化財出前講座を行っている。

開催日	時間	依頼者	内容	参加者
H20. 8.22	15:00～16:30	宮崎市立江南小学校 (教職員対象)	センター業務の紹介、学校周辺の遺跡の説明及び身近な地域における遺跡や土器などの教材の工夫について説明	20名
H20. 9.10	10:15～12:00	都城市北諸学園 (生涯学習団体)	北諸県地区の遺跡をピックアップし、センターの業務を説明するとともに、発掘調査の成果報告	13名
H20.10. 8	9:30～11:30	都城市高城町日和城学園 (生涯学習団体)	埋蔵文化財センター及び旧高城町教育委員会が発掘調査を実施した遺跡をピックアップし、センター業務の紹介と発掘調査の成果報告	13名
H20.11.28	14:10～15:55	日向市立塩見小学校 (小学生対象)	センター業務の紹介と身近な文化財を学ぶという視点で中山遺跡・塩見城跡の発掘調査の成果を報告し、実際の遺物に触れる活動	45名
H20.12. 4	10:40～12:10	三股町立三股小学校 (小学生対象)	センター業務の紹介と三股町周辺の遺跡を中心に発掘調査の成果を説明し、当時の人びとの生活の様子を遺物に触れながら説明	103名
H21. 1. 8	14:05～15:45	県立都城さくら聴覚支援学校 (小・中・高校生対象)	センター業務の紹介と学校周辺の遺跡を中心に発掘調査の成果を説明、遺物の見学や簡単な整理作業の体験活動	31名
H21. 2.17	10:15～11:25	高原町立狭野小学校 (小学生対象)	センター業務の紹介と高原町の遺跡を中心に発掘調査の成果を説明し、地層と時代との関連にも触れ、当時の人々の生活の様子を遺物にも触れながらの説明	28名
H21. 3. 9	14:45～15:35	県立明星視覚支援学校 (小・中・高校生対象)	土器や石器の接合、施文具による縄文施文体験及び土器や石器の触察活動を通して当時の人々の生活の様子を説明	25名

### (5) ミニ巡回展

今までに発掘した県内各地の遺跡の写真や出土した遺物などを、各地域で展示し、埋蔵文化財センターの業務内容についての理解を深める一助とすることを目的として実施している。本年度は県立図書館において実施した。

	開催期間	時間	場所	内容	参加者
1	H20. 8.19 } H20. 9. 5	9:00~18:00	県立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひむかの歴史2008速報会で登場する遺跡の概要速報パネル</li> <li>・これまで、埋蔵文化財センターの発掘調査で出土した遺物各種の公開</li> </ul>	598名

### (6) 発掘体験

郷土の歴史への興味・関心を高め、埋蔵文化財を大切に作る心を育てること、さらに埋蔵文化財センターの業務内容についての理解を深める一助とすることを目的として実施している。本年度は、中野内遺跡と梅北針谷遺跡において実施した。

開催日	開催地・内容	参加者
H20.7.14(月) } H20.7.15(火)	中野内遺跡（延岡市） (1) 現場と埋蔵文化財センターの仕事について説明 (2) 発掘体験（水洗作業・包含層掘削） (3) 体験活動のまとめ	北浦中1B級 23名 北浦中1A級 21名
H20.8.24(日)	梅北針谷遺跡（都城市） (1) 現場と埋蔵文化財センターの仕事について説明 (2) 発掘体験（鋤簾作業・包含層掘削） (3) 篩をつかった鉄滓の抽出	21名



発掘体験の様子「梅北針谷遺跡」



出前講座の様子「都城さくら聴覚支援学校」

## (7) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可があり、本年度は館内利用が21件、館外貸出が16件、掲載許可が8件であった。

### 館内利用

遺跡・利用資料	利用目的	利用日
上の原遺跡、長園原遺跡、白ヶ野第2・3遺跡、朝草原遺跡、永牟田第2遺跡、小並第1遺跡、立野第5遺跡、前ノ田村上第2遺跡、中ノ迫第2遺跡[石器]	資料調査	H20. 5. 7～ 8
前ノ田村上第2遺跡、山田遺跡[石器]	資料調査	H20. 6.15
春日地区遺跡第2地点、堂地西遺跡、上ノ原遺跡、木脇遺跡[石器]	資料調査	H20. 6.21～22
阿蘇原上遺跡、塚原遺跡、下屋敷遺跡[土器・石器]	資料調査	H20. 7. 2～ 3
尾立第2遺跡[石器]、阿蘇原上遺跡[土器・石器]	資料調査	H20. 7. 9
西ノ別府遺跡[重圏文鏡]、山崎下ノ原遺跡[珠文鏡]	資料調査	H20. 7.30
北牛牧第5遺跡、唐木戸第3遺跡、音明寺第2遺跡、上ノ原遺跡、長園遺跡[石器]	資料調査	H20. 8. 2～ 3
山田遺跡、上ノ原遺跡、前ノ田村上第2遺跡、中ノ迫第2遺跡、矢野原遺跡、立野第5遺跡、林遺跡[石器]	資料調査	H20. 9. 9～13
山田遺跡、尾立第2遺跡、中ノ迫第3遺跡、東畦原第1遺跡、塚原遺跡、国光原遺跡、阿蘇原上遺跡、木脇遺跡、赤木遺跡第8地点（三次）[土器・石器]	資料調査	H20. 9.19～20
宮崎市埋蔵文化財調査研究報告I[報告書]	資料調査	H20. 9.23
前ノ田村上第2遺跡、中ノ迫第1遺跡（一次、二次）、中ノ迫第2遺跡、尾立第2遺跡[石器]	資料調査	H20. 9.28
阿蘇原上遺跡、堂地西遺跡、塚原遺跡、国光原遺跡、木脇遺跡、牧内第2遺跡、崩戸遺跡、老瀬坂上第3遺跡、市納上第2遺跡、東畦原第1遺跡（四次調査）、霧島遺跡、山田遺跡[土器、石器]	資料調査	H20. 9.30
野首第2遺跡、牧内第1遺跡、尾立第2遺跡[石器]	資料調査	H20.10. 2～ 3
大萩遺跡、学頭遺跡、市位遺跡、右葛ヶ迫遺跡、枯木ヶ迫遺跡、五ヶ村遺跡、西畦原第2遺跡、下大五郎遺跡、赤坂遺跡、平田遺跡D地点、諸麦遺跡、宮ノ東遺跡[土器]	資料調査	H20.11. 4～ 6
妙見遺跡、木脇遺跡、白ヶ野第2・3遺跡、野首第2遺跡[土器]	資料調査	H20.11.20～21
上の原第1遺跡、王子原遺跡、柿迫遺跡、白ヶ野第2・3遺跡、市納上第2遺跡[縄文土器]	資料調査	H20.11.28
山田遺跡、音明寺第2遺跡、赤木遺跡第8地点、長園原遺跡、前ノ田村上第2遺跡、中ノ迫第2遺跡、尾立第2遺跡、塚原遺跡C地点、阿蘇原上遺跡[石器・土器]	資料調査	H20.12. 8
阿蘇原上遺跡[縄文時代草創期の土器・石器]	資料調査	H20.12.18
山田遺跡、東畦原第1遺跡（1・3・4次調査）、高野原遺跡第5地点、矢野原遺跡[石器]	資料調査	H21. 3. 9～11
野首第1遺跡[飾り鋳]	資料調査	H21. 3.23
山田遺跡、赤木遺跡第8地点（三次）[石器]	資料調査	H21. 3.26

館外貸出

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
野首第1遺跡、志戸平遺跡(三次)、松本塚古墳、前田遺跡、町屋敷遺跡、右葛ヶ迫遺跡、石用遺跡、枯木ヶ迫遺跡、曾井第2遺跡[曲物、椀、盾等木製品]	27点	特別展「木と共に生きた人びと」での展示	H20. 3.27 } H20. 6.30	県立西都原考古博物館
町屋敷遺跡、湯牟田遺跡[扇状木器・炭化鋤写真]	8点	特別展「木と共に生きた人びと」展示グラフィックパネル及び刊行物へ掲載	H20. 4. 1 } H20. 4.30	県立西都原考古博物館
東畦原第1遺跡(二次)、東畦原第2遺跡、西畦原第2遺跡(一次・二次・三次)、前ノ田村上第2遺跡、野首第2遺跡、内屋敷遺跡、池島遺跡、前ノ田村上第1遺跡、唐木戸第4遺跡、南中原第1遺跡(一次)、東平下遺跡、尾花A遺跡、赤坂遺跡、湯牟田遺跡(二次)、西別府遺跡、下耳切第3遺跡、寺崎遺跡、高鍋城跡[遺構等報告書掲載写真]	30点	『図説西都・児湯の歴史』への掲載	H20. 6.11 } H20. 7.10	株式会社郷土出版社
平畑遺跡、陣内遺跡、竹ノ内遺跡、西下本庄遺跡、筆無遺跡、大島島田遺跡、平田迫遺跡上ノ原第2遺跡、八児遺跡[黒色磨研土器、高環、石帯、馬鈴等]	32点	企画展「色と音の考古学」での展示	H20. 6.23 } H20. 9.10	県立西都原考古博物館
出前講座学習キット[旧石器、縄文、弥生時代編]	3セット	中学校社会科(歴史的分野)授業での教材として活用	H20. 6.29 } H20. 7. 6	県立西都原考古博物館
阿蘇原上遺跡、五ヶ村遺跡、大野原遺跡、南平第3遺跡、古城遺跡、板平遺跡、苺田窯跡、神殿遺跡[土器・石器・竪穴住居跡等写真]	15点	『図説東臼杵・西臼杵の歴史』への掲載	H20. 7. 7 } H20. 8. 5	株式会社郷土出版社
熊野原遺跡、大岩田上村遺跡[大型銅銭]	4点	テーマ展示「大型銭」における展示及び解説パネル、ポスター、チラシへの掲載	H20. 8.26 } H20.10. 9	県立西都原考古博物館
塚原遺跡[縄文時代草創期赤彩土器]	2点	企画展「色と音の考古学」での展示	H20. 9.10 } H20.11.20	熊本県立裝飾古墳館
前ノ田村上第2遺跡、山田遺跡[剥片尖頭器・礫器・石斧]	27点	特別展「氷河時代の山をひらき、海をわたる」での展示	H20.10. 1 } H20.12.26	明治大学博物館
音明寺第2遺跡、赤木遺跡第8地点(二次・三次)、山田遺跡、矢野原遺跡、阿蘇原上遺跡、赤石・天神本遺跡、木脇遺跡、塚原遺跡、野首第2遺跡、別府原遺跡、竹ノ内遺跡、上牧第2遺跡、王子原遺跡、宮ノ東遺跡、右葛ヶ迫遺跡、下那珂遺跡、湯牟田遺跡、古城遺跡、鶴野内中水流遺跡、下大五郎遺跡、平田遺跡、迫内遺跡、下耳切第3遺跡、野首第1遺跡、西ノ別府遺跡、山崎下ノ原遺跡、	1463点(遺物) 49点(写真)	特別展「みやざきの考古新発見展」での展示、パネル、チラシ、ポスターへの掲載	H20.10. 6 } H20.12.10	県立総合博物館

貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
板平遺跡、木脇遺跡、日向国府、八児遺跡、余り田遺跡、西下本庄遺跡、荒迫遺跡、大島畠田遺跡、筆無遺跡、前ノ田村上第1遺跡、平田迫遺跡、池島遺跡、上ノ原遺跡、本城原遺跡、八幡遺跡、中山遺跡、曾井第2遺跡、堀川運河[土器・石器・陶磁器等、報告書掲載写真]				
中山遺跡[中山遺跡出土土製品]	1点	図書館事業における特別展示	H20.11.28 } H20.12.24	日向市立図書館
瀬戸前1号横穴墓、瓜生野村古墳30号横穴墓、迫内遺跡[須恵器・鉄器・管玉等・報告書掲載写真]	18点 (遺物) 15点 (写真)	企画展「横穴墓にみせられて」での展示	H21. 1.14 } H21. 3.13	みやざき歴史文化館
板平遺跡、下耳切第3遺跡[車輪石・円面硯]	2点	考古展示充実のための復元模型作製のため	H21. 1.26 } H21. 4.20	県立総合博物館
野首第1遺跡、老瀬坂上第3遺跡、湯牟田遺跡(二次)、平田遺跡(D・E地点)、板平遺跡[遺跡空撮写真]	10点	文化庁業務『発掘調査のてびきー集落遺跡・調査編ー「第VI章第3節埋蔵文化財写真」』作成にかかる遺跡全景写真の掲載	H21. 2. 5 } H21. 3.31	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
大内原遺跡[礫石経]、前ノ田村上第1遺跡、銀座第1遺跡(四次)[土師器]	6点	平成20年度テーマ展「古代～近世の埋葬」での展示	H21. 3.17 } H21. 4.15	県立西都原考古博物館
布平遺跡、古城遺跡、阿蘇原上遺跡、南平第3遺跡、五ヶ村遺跡、平田遺跡D・E地点、下那珂遺跡[土器・石器・鉄器・装飾品等]	198点	平成21年度特別展「何の意ぞ碧山に栖む」での展示	H21. 3.20 } H21. 6.28	県立西都原考古博物館

#### 刊行物等掲載(写真提供)

資料名	掲載刊行物	依頼者	申請日
中山遺跡[E区検出掘立柱建物跡写真]	『開発と災害ー中世都市研究14』出版に伴う掲載	株式会社新人物往来社	H20. 6.26
大島畠田遺跡[墨書土器写真]	都城市「みんなのふるさと・郷土歴史読本」出版に伴う掲載	都城市教育委員会	H20. 6.24
中山遺跡[中山遺跡出土土製品写真]	大分県教育庁埋蔵文化財センター主催「フェスタ南蛮」パネルディスカッションのプレゼン資料	個人	H20. 7. 3
八児遺跡[滑石製石鍋写真]	沖縄県内放送「おきでん百添アワーウチナー紀聞」9/28放送「大いなる遺産シリーズ第三話グスク時代」への転載	株式会社沖縄映像センター	H20. 9.18

資料名	掲載刊行物	依頼者	申請日
中山遺跡[中山遺跡出土土製品写真]	『マンショ』第3号への掲載	有限会社鉾脈社	H20. 9.25
大島畠田遺跡[遺跡遠景写真]	ホームページへの掲載	個人	H20.11.14
竹ノ内遺跡[軽石製岩偶写真]	月刊誌『日本の美術』「縄文人の祈り—形と文様」への掲載	株式会社至文堂	H20.11. 5
塩見城跡[現地説明会資料]	情報誌「文化財発掘出土情報」2009年3・4月号への掲載	株式会社ジャパン通信情報センター	H21. 1.23

#### (8) 見学・研修・体験学習等の受入れ

埋蔵文化財センターや発掘調査現場の見学や研修、体験学習を取り入れる学校や教育機関が増加している。本年度は施設見学、インターンシップ、職場体験学習等が実施され、児童・生徒や学生等をはじめ広く県民を受け入れた。

内容	場所	依頼者	実施日	参加者
施設見学	埋蔵文化財センター本館	熊野江高齢者クラブ	H20.10.15	20名
施設見学	埋蔵文化財センター本館	西門川中家庭教育学級	H20.10.23	25名
国際シンポジウム・施設見学	埋蔵文化財センター本館	スヤンゲ国際学会	H20.12. 8	40名
教職経験10年経過研修	埋蔵文化財センター本館 銀座第1遺跡	県教育研修センター	H20.10.21～23	14名
職場体験学習	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立広瀬中学校	H20.11.26・27	1名

#### (9) 広報出版物

埋蔵文化財保護啓発活動の一環として、埋蔵文化財センターの「事業案内」及び「埋文通信」の発行や「ここまでわかったひむかの歴史」、「ひむかの歴史2008」、施設公開等についてもポスターやパンフレット、資料等の作成・刊行を行っている。

	広報出版物	発行年月
1	平成21年度宮崎県埋蔵文化財センター「事業案内」	H21. 3
2	埋蔵文化財通信「みやざき」10号	H21. 3

#### (10) ホームページ

本年度は、現地説明会や発掘体験などの事業の案内・報告の内容充実、発掘情報のリアルタイムでの情報提供を行いながら、内容の充実を図った。

### (11) 現地説明会及び成果報告会

本年度は現地説明会を3現場で実施した。

#### 現地説明会

	遺跡名	所在地	期日	参加者	事業内容
1	塩見城跡現地説明会	日向市	H20. 5.25	40名	東九州自動車道
2	高鍋城三の丸現地説明会	高鍋町	H20. 7. 8	12名	高鍋農業高校実習施設緊急整備事業
3	森ノ上遺跡現地説明会	延岡市	H20.12.18	122名	東九州自動車道

### (12) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

内容	派遣期日	依頼者	派遣職員
考古博講座「弥生時代の交流」	H20. 9. 6	県立西都原考古博物館	長津 宗重
歴史文化講座「狩人の足跡～約2万年前の宮崎と剥片尖頭器～」	H21. 1.17	みやざき歴史文化館	藤木 聡
考古博講座「奈良時代の交流」	H21. 2. 7	県立西都原考古博物館	今塩屋 毅行

### (13) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内容	場所	期日	参加者数
鍛冶に関する遺構・遺物の調査方法 ～現場での調査方法と出土遺物の調査・ 取り扱いについて～	埋蔵文化財センター本館	H21. 2.13	講師 1名 市町村担当 15名 センター職員 27名 計43名

## 3 会議・職員研修

### (1) 各種会議等への参加

独立行政法人奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内容	日程	開催地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	H20. 5.29～30	北海道札幌市	福永 展幸 菅付 和樹 遠目塚尚子
県地方史研究連絡協議会総会	H20. 6.12	宮崎市	福田 泰典

内 容	日 程	開催地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	H20. 9. 4～ 5	岡山県倉敷市	福田 泰典
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会役員会	H20.11. 6～ 7	宮城県多賀城市	長津 宗重 清藤 莊八
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会	H20.11.20～21	静岡県磐田市	松本 茂 和田 理啓
埋蔵文化財担当者研修「中近世城郭調査整備 課程」	H20.12.11～18	奈良文化財研究所	今塩屋毅行
九州各県・政令指定都市博物館連絡会議	H21. 1.15～16	鹿児島市	堀田 孝博
文化庁埋文担当職員等講習会	H21. 2. 4～ 6	福岡県太宰府市	二宮 満夫

## (2) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、各講習会へ参加している。

内 容	日 程	参加者
安全衛生推進者養成講習	H20. 4. 3～ 4	田村浩司 吉野達三 古田 陽 田中達也 若松宏一 二宮満夫
救急講座（救命・応急手当）	H20. 5.29 H20. 5.30	総務課・調査第一課・調査第二課・普及 資料課
衛生管理者試験受験準備講習会	H20. 6.23～25	堀田 孝博
第二種衛生管理者免許試験	H20. 8.23	堀田 孝博
有機溶剤作業主任者技能講習	H20. 8.26～27	橋本 憲二



## IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成8年3月29日  
教育委員会規則第5号

改正

平成12年1月20日教育委員会規則第1号  
平成12年3月31日教育委員会規則第8号  
平成12年12月18日教育委員会規則第21号  
平成18年3月30日教育委員会規則第9号  
平成19年3月30日教育委員会規則第3号  
平成20年3月31日教育委員会規則第6号  
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。  
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第2条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査研究に関する事。
- (2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関する事。
- (3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関する事。
- (4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関する事。
- (5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関する事。
- (6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関する事。

(組織)

第3条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査第1課
調査第2課
普及資料課

(分掌事務)

第4条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関する事。
- (2) 予算の執行及び決算に関する事。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関する事。
- (4) 公印の管守に関する事。
- (5) 施設及び設備の管理に関する事。
- (6) その他他の課の所管に属さない事項に関する事。

調査第1課

- (1) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する事。
- (2) 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関する事。
- (3) 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関する事。

調査第2課

- (1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する事。
- (2) 前号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関する事。
- (3) 第1号の発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関する事。

普及資料課

- (1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関する事。
- (2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関する事。
- (3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）

- の貸出しに関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副所長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主事	上司の命を受けて、事務に従事する。

- 2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。
- 3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。
- 第1順位 統括の副所長
- 第2順位 業務担当の副所長
- 4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副参事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副主幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要に応じ、技術員を置く。

- 2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

- 2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区分	休館日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日
	2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。)
	4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。)
	2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。)
	3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで
	4 特別整理期間

- 2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。
- (4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。
- (5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第11条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
- (5) 市町村立の歴史民族資料館等で宮崎県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が定めるもの
- (6) その他教育長が適当と認めるもの

2 資料等の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。

3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書(別記様式第2号)を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。

4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。

- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
- (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
- (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁 償)

第12条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委 任)

第13条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成8年4月1日から施行する。

(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)

2 宮崎県総合博物館管理運営規則(昭和46年宮崎県教育委員会規則第4号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成12年1月20日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成12年1月20日から施行する。

附 則(平成12年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成12年12月18日教育委員会規則第21号抄)

(施行期日)

1 この規則は、平成13年1月6日から施行する。

附 則(平成18年3月30日教育委員会規則第9号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日教育委員会規則第3号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日教育委員会規則第6号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

別記

様式第1号

(第10条関係)

様式第2号

(第11条関係)

別記

様式第1号（第10条関係）

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所  
申請者 氏 名  
電話番号

（法人にあつては主たる事務所の所在地、  
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

別記

様式第2号（第11条関係）

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

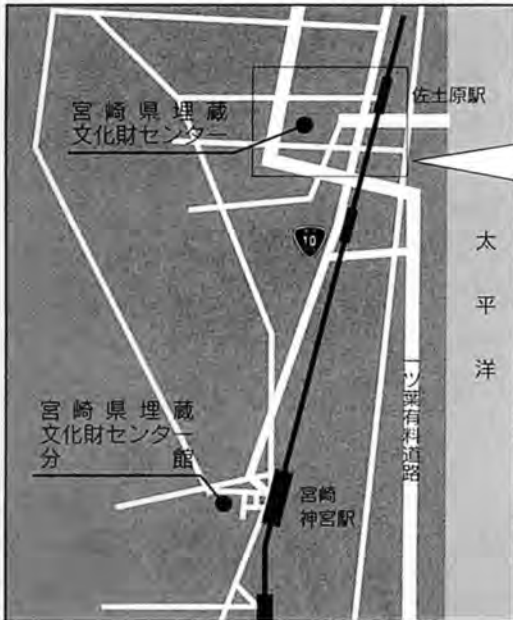
住 所  
申請者 氏 名  
電話番号

（法人にあつては主たる事務所の所在地、  
名称及び電話番号並びに代表者の氏名）

資料等の館外貸出をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から	年 月	日まで

## (案内図)



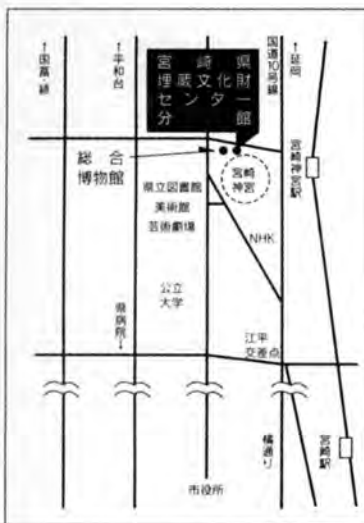
### 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地  
 Tel.0985-36-1171・36-1172 Fax.0985-72-0660  
 E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp  
 URL <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>  
 ◎佐土原駅(JR)車10分 ◎御殿下バス停徒歩8分

### 宮崎県埋蔵文化財センター分館

〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4  
 Tel.0985-21-1600 Fax.0985-26-2634

- 観覧時間  
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日  
年未年始（12月28日～1月4日）
- 入館料 無料
- 宮崎神宮駅（JR）－徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス－神宮終点下車徒歩10分
- 綾・国富・平和が丘行きバス－「博物館前」下車徒歩2分



宮崎県埋蔵文化財センター年報第13号  
平成21年度 (2009)

編集・発行：宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212  
宮崎市佐土原町下那珂4019

Tel 0985(36)1171・36-1172 Fax 0985(72)0660

<http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/index.html>

発行月：平成21年5月

印刷：有限会社 鋳脈社  
宮崎市田代町263番地

## 宮崎県埋蔵文化財センター

---

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地  
Tel.0985-36-1171・36-1172 Fax.0985-72-0660

◎佐土原駅(JR)車10分 ◎御殿下バス停徒歩8分